

1 回答数

依頼数	12
回答数	12

2 作業負担について

①提案に関する申請書

負担度合		理由
負担が重い	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア実働作業不足 ・通常業務でもマンパワー不足気味なところに、人件費なく事業をおこなうこと（3件） ・行政としての書式が決まっており、提出内容が類似で繰り返しの表現が多いと思う。 ・決まった様式に収めるのは、不慣れなせいかスムーズに進まなかった。
負担ではない	4	<ul style="list-style-type: none"> ・申請書作成者が行政文書の作成になれていたこと。 ・市担当部署のアドバイスが得られたこと。 ・必要な事だと思う。 ・書類の作成は慣れない手前、大変お世話になったが丁寧にご説明頂けたので何とか遅滞することなく提出することが出来た。
どちらでもない	1	<ul style="list-style-type: none"> ・資料作成が難しかった。

②申請内容に関する協働推進課や市担当部署との協議・調整

負担度合		理由
負担が重い	5	<ul style="list-style-type: none"> ・通常業務でもマンパワー不足気味なところに、人件費なく事業をおこなうこと。ただし、担当課（障がい福祉課）とは十分な協力体制は出来たと思うが、どちらも業務多忙の中での調整は大変であった。（3件） ・私は時間の自由度が有ったため、担当される方が多忙でも調整できたが、仕事を持っている人は時間が取れず、提案する気にもならないと思う。
負担ではない	5	<ul style="list-style-type: none"> ・申請作成者が、行政との折衝になれていたこと。 ・申請団体は、市担当部署の応援団として、密にコミュニケーションをとっており、常日頃から意思疎通がうまくいっていたこと。 ・必要な事だと思う。 ・疑問などにも丁寧にお答えいただき、安心して協議等を行うことが出来た。

どちらでもない	2	・協議・調整に関しては、電話・メールのやり取りが出来たので、それ程負担には感じなかった。
---------	---	--

③プレゼンテーションの実施

負担度合		理由
負担が重い	5	<ul style="list-style-type: none"> ・3事業すべてが社協であったので、準備を含め時間的にもハードであった。(3件) ・人前で話すのが苦手なため、緊張した。 ・まず、プレゼンテーション用に見せられる形の資料を作成することが面倒であった。
負担ではない	5	<ul style="list-style-type: none"> ・申請者がプレゼンになれていたこと、及び積極的に説明し、理解して欲しいという意味を持っていたこと。 ・パワーポイント作成について(申請者が不得意)市担当部署の多大な支援があったこと。 ・自身は負担ではないが、パワーポイントのソフトが入っていないパソコン所持者や、パソコン自体を使わない人にとって、資料作りは大変そうである。 ・事業内容を説明する機会を頂けることで、事業運営に関する詰め甘さを指摘していただけるのでとても安心した。 ・仕事等で経験があれば苦にはならないが、一般の人達にはかなり苦痛で、提案を断念する人は多いと思う。行政や市民のスペシャリストが協力すべきである。
どちらでもない	2	

④実施事業の市担当部署との協議・調整

負担度合		理由
負担が重い	4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施にあたり複数回の協議が必要なため。(2件) ・事業実施にあたり複数の関係課との協議が必要であり、また経験のない事業のため進捗を確認しながら協議を重ねていったため。 ・同じ様な事を繰り返させる方法は、お役所仕事である。民間企業の方法を勉強されると、活性化すると考える。
負担ではない	5	<ul style="list-style-type: none"> ・申請者と市担当部署とは、活動を通じてコミュニケーションが図られているため。 ・今回の申請は、担当部署からの話であり、担当部署が積極的に助力してくださったから。 ・事業を行うにあたり、協働する・しないに関わらず、協議することは変わらないので、負担ではない。日時も合わせて頂いた。 ・必要な事だと思う。
どちらでもない	3	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部署の皆様がとても協力的にやって下さったので、非常にスムーズにできた。

⑤事業の報告書類の作成

負担度合		理由
負担が重い	8	<ul style="list-style-type: none"> ・書式のしぼりが厳しく、似たような書類を複数作成しなければならないのが負担だった。「様式第〇号」といった形式に慣れているのは、役所の職員だけではないかと思った。 ・3事業が採択されたため、事業報告と報告会用資料を作成しなくてはならなかった。(3件) ・会計報告書の作成が難しかった。 ・様式に合わせ作成することが、実施報告の作成と二度手間になった。 ・特にアンケートの集計に手間がかかり、煩雑な作業となった。また、決算書の項目等が分かりづらかった。 ・提出内容が類似し、繰返しの表現が多いと思う。極力簡素化を考えて欲しい。
負担ではない	4	<ul style="list-style-type: none"> ・申請者の中に書類作成を苦にしない者がいたから。むしろ、報告書類作成の工夫を楽しんだ。 ・自身は負担ではないが、パソコン自体を使わない人にとって、資料作りは大変そうである。
どちらでもない	0	

⑥事業報告会の実施

※2団体は未実施のため、回答なし

負担度合		理由
負担が重い	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3事業が採択されたため、事業報告と報告会用資料を作成しなくてはならなかった。(3件) ・時間を取り、発表すること自体面倒でした。報告書のみで済まないものか。
負担ではない	3	<ul style="list-style-type: none"> ・申請者としては、多くの人達に知って欲しいという思いが強かったから。 ・負担ではないが、関係者しか参加がなく、報告会の効果に疑問がある。
どちらでもない	3	<ul style="list-style-type: none"> ・意義ある場とは思いますが、とても固い場で、市民が気軽に参加する雰囲気ではないのがとても残念に感じた。子ども連れでも歓迎されるようなオープンな場になるとよいと思う。

⑦その他

なし

3 制度の課題点について

①制度下での実施が1年限りで、継続性がない

回答 7件

具体的な内容	考えられる改善方法
<ul style="list-style-type: none">市と一緒にやるということに対して物事の進め方などを1年やってようやく理解できたという感じだったので、複数年あれば、1年目の反省をもとにより踏み込んだ事業にできる気がした。	
<ul style="list-style-type: none">啓発的な内容であれば、継続が必要。	⇒今回は2回実施したが、年1回、予算半分強位で続けることが重要。
<ul style="list-style-type: none">1度行い、課題や問題点がわかってもらってもそれを改善することができない。	⇒3年実施し2年目で、前年度と比較し改善できているか等を検証して3年目で継続事業になるかどうかの判断でないと、1発花火みたいでは、いいも悪いも評価が出ないと思う。
<ul style="list-style-type: none">実施事業は、子猫が産まれる数を減らしていくことが目的であり、継続していくことが重要であると考えている。	⇒継続していく事業に限っては、毎年補助金を出す。
<ul style="list-style-type: none">事業目的を達成するためには、継続が必要であるため、継続した助成をしてほしい。	⇒3年間の計画で、毎年金額は異なるが助成するように改める。
<ul style="list-style-type: none">1年活動して見えてくるものがあると思う。	⇒基本1年とし、継続した方が良いと市が判断した事業に関しては、次年度も行う。
<ul style="list-style-type: none">継続開催を望む声が多いことから考えると継続開催によって市民参加の増加が見込まれる。	⇒開催後のアンケートなどによって継続的開催が有効と認められる場合には例えば3年などの期限を設けて継続的に開催できるような仕組みがあってもいいかと思う。

②補助金額が少ない（上限20万円）

回答 6件

具体的な内容	考えられる改善方法
<ul style="list-style-type: none"> 補助金額よりも用途の自由度がないことの方が厳しいと思った。団体内の者に対する謝金は出ない等で、団体予算からの支出をした。 また、領収書の提出等についても、レシートではなく領収書、店のポイントカードの利用は不可、交通機関の領収書が必要等、かなり運用が厳しいのも負担だった。 	<p>⇒事業に必要な支出であれば、もう少し団体裁量で支出を認めてもらえるとよいと思った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 今回、個人の伝手で格安にてお呼びすることができたが、本来価格では到底厳しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 団体競技と個人競技の講師として計19名の方に当日の指導を依頼したが、予算上低額での講演料しか払えず、交通費等は講師にご負担をかけてしまった。 	<p>⇒講演内容、指導内容を縮小する等の方法もあるが、競技を間近で観戦、体感してもらう方が関心をひくため、団体競技の講師を依頼する事業では予算増が望ましい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> あくまでボランティアでの企画運営では、内容の充実を含め難しい。（社協は業務でおこなっているが、他団体等では人件費がないのは、個人の負担が大きいと思う） 	<p>⇒補助金の用途の拡大</p>
<ul style="list-style-type: none"> 今回採択された事業の規模が約120万円のもので市民参加の合唱団が個人で負担する金額が大人で6000円と高額になってしまった。可能であれば予算枠を増やしていただけると参加者負担を減らすことが出来、より多くの市民参加が見込まれると感じた。 	<p>⇒予算案を勘案して補助金の額を決定する（予算額の半額を補助）等の方法もあるかと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業実施時にさらに良いものを作ろうと思いついても、予算内で収めようとすると事業の発展の妨げとなる。 	<p>⇒事業の発展が見込まれれば、補助金の増額ができる自由度を設けてはどうか。</p>

③提案申請～事業実施、報告までのスケジュールが長い、時期が合わない

回答 3件

具体的な内容	考えられる改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ・年度の始めの方（6月頭）のイベントで、第1回目ということもあり、早めの広報をしたかったが、年度に入らないと出来なかった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・採択が早く決まれば、提案年度の3月までに打ち合わせや準備をし、翌年度4月から本格始動もできるのではないか。 	⇒柔軟に対応できるようにする。採択されなくても、予算面以外の部分で市と協働できるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・申請書の提出から事業報告までの時期が約2年かかり、完了までが長いと思う。また、今回の事業の性質上、市民参加の募集開始時期が予算確定前からの展開となってしまう対応が難しかった。 	

④市の協力体制が不足している

回答 3件

具体的な内容	考えられる改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学校へのチラシ配布を行ったが、参加が少なかった。 	⇒周知、広報等市のノウハウや手段を活用することで広く周知することができ、多くの市民の参加を期待できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・担当課との役割分担はできたが、相互の進捗状況を情報共有が難しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・周知が少ない。 	⇒SNSの発信やポスター掲示協力、学校などにもお知らせする。

⑤その他

回答 3件

項目	具体的な内容	考えられる改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の維持・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアで事業を実施しているが、いつまで続けられるか心配している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の使途 	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫の不妊手術代金も入れてほしい。 	⇒補助対象経費の幅を広げてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・制度の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の間ではあまり知られていない。HPから制度のページを探すのもかなり大変である。 	⇒過去の事業の良かったところを見やすく紹介する。

4 制度の周知方法や全般について

意見

- ・制度を活用し、事業を実施したことで、市民に還元された具体的事実をもっとアピールし、金銭的補助だけでなく、実施後も市の協力が得られれば、市民に制度が浸透し根付いていくのではないか。
- ・諸々の事務手続きの多さ、市に何をお願いできるのか、いまひとつ分かっていない等、十分にそれぞれの良さを発揮して事業ができたとはまでは至らなかった。補助金なしで、市の協力を得られるという協働事業の形もあり得ると思う。書類作成等の負担が厳しかったので、その負担をもう少し軽くし、柔軟なコラボレーションができれば、事務力が充分でない団体でも主としている事業の部分で力を発揮して、より良い事業ができるのではないか。
市担当者との連絡手段として、メールが利用できる環境を整えてほしい。
- ・制度下での事業終了後、市との協働の継続について、団体の意向が反映されない。
- ・この制度で事業を実施している団体の市民対象の活動時に、制度を周知するチラシの配布を依頼するなど、補助対象年度終了後も、協働推進課と連絡を密にしたり、補助対象後の活動を市として市民に知らせたりするなど、広く市民に制度を周知する工夫が必要である。
- ・自己の団体のみでのイベント開催にはハードルが高く、実現が難しいと思っていたものが、市との協働により、施設・備品・人員について融通していただき、また、その信用により地域の方々の理解と協力が得られ、実現出来たことは大きい。その後もイベントを継続出来ているのも、引き続き行政の協力・支援があるからである。
協働事業というネーミングが固い印象があり、取り付きにくいかなと思う。
- ・実施して良かったと思うので、制度自体の認知向上が必要である。周知が不足していると感じた。また、プレゼンや報告会を実施しても、関係者くらいしかいないので、市職員の関心もないのではないかと思った。
以前に実施された事業がその後どうなっているのか、関心がある。
- ・市民協働事業として様々なアイデアを広く募る可能性を広げるためにも、手続きの簡略化は今後必要になってくると思う。更に個人的な要望としてはダイバーシティ化していく世の中にあって市民の様々な要望を形にしていく行政の姿勢が今後さらに強まっていくことが想定されるので、富士見市として他市に先んじて施策を打っていくように期待したい。
- ・行政が市民パワーを引き出すための努力は素晴らしいと思うが、市の担当者があまりに忙しく、十分な支援につながっていないのではないか。